

目次

提言の要旨	1
1 はじめに	2
2 農業環境の現状	2
(1) 農業就業者数の状況	2
(2) 農業戸数の状況	2
(3) 農地の状況	3
① 耕地面積及び作付延べ面積	3
② 耕作放棄地	4
3 農業者の意向	4
(1) 自分の子どもに自家の農業を継がせたい	4
(2) 高齢化により耕作をやめてしまう	5
4 水田集落の課題（問題）	7
(1) 水田集落における主業農家・集落営農の確保状況	7
(2) 水田農業の受け皿となる集落営農の推進	7
5 集落営農の現状	8
(1) 集落営農に対する農家の意向	8
(2) 対象に内在する課題	9
(3) 理想とする集落営農形態	9
6 提言	11
提言1 農地を保全するための集落営農	11
提言2 実利をあげるための集落営農	13
7 おわりに	14

提言の要旨

地域における水田農業の受け皿となる集落営農の推進

農業環境の現状

- ◆ 農業就業者は長期的に減少、高齢化は大幅に進んでいる。
- ◆ 農家戸数が減少(20年前の半分以下)
- ◆ 耕地面積、作付延べ面積共に減少。
- ◆ 耕作放棄地は毎年増加。土地持ち非農家所有が30年間で倍に。

農業者の意向

- ◆ 後継者がいないが、7割が自分の子どもに自家の農業を継がせたい。
- ◆ 農業を維持していくためには、十分な所得が得られる対策を望んでいる。
- ◆ 自分の体が動く間は、自分の土地を守りたい。

水田集落における米主業農家・集落営農不在の集落は **4割** が存在
 これらの集落を支援しないと…
 5年後、10年後は農家をやめてしまい、耕作放棄地が更に増大する

兼業農家・小規模農家・高齢化農家が
 “安心して農地を預ける” ことができる

集落営農

理想とする集落営農は

- リーダーを中心に、オペレーター、補助員、農地の貸し手となる農家など、地域が一体となった集落営農経営。
- オペレーターの収入はサラリーマン世帯と同等の安定した収入。

提言1 農地を保全するための集落営農

理想とする集落営農をステップ毎に支援

- S1 集落営農サポートチームの編成
- S2 サポートチームによる集落への呼びかけ
- S3 集落点検活動、集落営農ビジョンの作成
- S4 「集落の農業を考える会」の設立
- S5 集落営農への合意形成
- S6 集落営農の設立

提言2 実利をあげるための集落営農

- ① 利益を向上させるための支援
収益性の高い新規作物への取組
- ② 煩雑な経理への負担軽減支援
- ③ オペレーターのやる気を起こすボーナス（やりがい給）
- ④ 営農計画を作成するための支援